

議員特別研修実施報告書

報告議員名	高橋聖悟	報告日	令和6年8月6日
調査研究・研修等 名 称	全国地方議会サミット2024 非常事態への備えこれからの議会		
実 施 日	令和6年7月10日～11日		
会 場	早稲田大学井深大記念ホール		
調査研究・研修等の 概 要	<ul style="list-style-type: none">・非常事態への備えと議会の対応・役割・防災DXの最前線と今後の展開・災害時における最新テクノロジー活用の可能性 デジタル化、生成AIの活用、 被災地の現場の声・報告		
調査研究・研修等の 成果と感想	別紙添付		

※調査研究・研修等の成果を証する書類の写しを添付してください。

報告書

全国地方議会サミット 2024 非常事態への備え・これからの議会
新宿区早稲田大学 国際会議場 井深大記念ホール

所感

2024年元日に発生した能登半島地震を例に、災害対応や支援のあり方、最新技術やデジタル、各地の経験をどう活かしているのか、また、地域や住民の生活を守るために、我々が学ぶべき現場の実践、経験について、現場にて対応にあたった当事者や経験者が議論したことを拝聴。また、非常事態や様々な課題への対応、強い地域を作る「これからの議会」の提起、そして議会はどうあるべきかを拝聴してきました。

Day1

・能登半島地震被災地の議会からの報告:3つの市町村議会からの当時の状況の説明がありました。東日本大震災の知見からも分かる通り、現地の状況も惨憺たるものでした。もちろん、当時の状況は、電波も通じず、電気もなし、ガソリンもなし、道路も寸断、役所も機能不全。状況把握、支援には大変苦労したとのこと。電波は4日後に開通、現地に來れたのは、自衛隊のみ(2日目に來た)という自治体もあった。その後の物資供給も道路の破断により、車両は進めなかったとのこと。10センチ段差があれば通行不可能とのこと。また、せつかくの支援が、トラックが多く集まり、大渋滞を引き起こし、10時間荷下ろし待ちという事例もあり。役所の職員も被災者となったことから、20/200人しか集れなかったとのこと。支援物資も有難いが、フェーズによって必要なものが変わる。日経つにつれ、必要なものが変わるとのこと。など、沢山の現地の話が発表されました。

そして、熊本市長からは、「熊本地震の経験と自治体間支援の現場から」と題して講演いただきました。避難所で生じる問題について、避難所においては、2日目でトイレに行きたくない現象が生じると。それは自分がしたものの上にまた用を足すのが嫌だから我慢する。そして水を飲まなくなる。そしてそれが健康を阻害するという問題が発生するとのことでした。後は、物資の流れが滞る問題、ゴミの問題、寝床の問題、ペットの取り扱いなどが挙げられました。こういった諸問題を解決するには平時からの備えが必要であるとのこと。また、支援するなら、キャンピングカーの導入や住宅の無償提供、支援物資のメニューの取りまとめ、飲料水の支援、災害対応従事者への簡易ベッドの提供などを支援してあげることが重要であるとのことでした。これを教訓に我が市も平時のうちに内容、対策を立案すべきであると思いました。

・防災DXの最前線と今後の展開:災害対応の現場では極限の状況の中で、被害、復旧、要請等、様々な状況を迅速に把握し、的確に意思決定、行動することが求められます。そのためには「情報」が不可欠という思いからこの講座を聞いてきました。講師いわく、その情報を取りまとめることが難しいということから、つなぎ合わせるものがないといけない、現場と各機関同士をつなぐパイプラインがなければいけないということで、現在は、基盤的防災情報ネットワーク「SPI4D」を実現し、災害対応の効果最大化を目指しているそうです。また、「防災クロスビュー」や「ISUT」についての内容や活動も学びました。難しい話でしたが、参集できない、現地行けないという状況の中、デジタルの準備は必須であると思いました。

・災害時におけるドローン、人工衛星など最新テクノロジー活用の可能性:この講演については大変ユニークなものでした。講師は、佐賀県庁やJAXA、総務省地域情報化アドバイザーをし、全国の自治体へデジタル化の推進を支援している方で、自身を宇宙公務員と呼んでいる方でした。彼は、今でこそドローンの活用は当たり前になっています

が、2014年ごろからドローンの活用研究し、普及させた方のようにした。空撮、物資搬送など。熊本地震でのドローンの活躍も。ドローンもそうだが、真剣に取り入れた県庁や市町村も素晴らしいと感じた。横手においても平時より研究し、いざとなったら利用できるようにしたい。普及すべきと思った。そのほか、人工衛星画像とドローンの組み合わせで、災害地を知るとか、測位衛星や地球観測衛星の活用事例など、テクノロジーにおいて災害現場状況を確認把握することもできることを示していただき、大変参考になった。シミュレーションしたいと思った。あとは、宇宙技術の活用による地域創生とか(実際あるらしいが)、衛星を47都道府県で持ってみようとか宇宙公務員らしい話が興味深かった。そのほか、「能登半島地震の各自治体の状況」や「東日本大震災の経験から」などの話を聞いてきました。

Day2

非常事態への備えと議会の対応、役割:議会の役割としては、自治体としての事前の備えの促進が第一。発災前に、自治体政策の方向性をリードする事も議会の役割であるとともに、個々の議員による質問等にあってもある程度実現させることをすればよいとのこと。発災期における個別的に行政現場にインプットしたり、応急期におけるやみくもな調査活動の展開は避けること、また復旧期における集約する機能を発揮できないままに議員の思いつきによる問題提起と散発的な議論は避けるべきであるとのこと。この手の話をするという事は、まだ、わからぬ議員がいることだろう。行政の足を引っ張らないかつ行政に丸投げをしないなんて学者に言われてるなんて、、、。また、議会は災害対策本部のオブザーバーになれば良いとのこと。本部では首長の隣に議長がいつも並ぶ、執行権を持たない議会だが、災害対策本部と密に情報共有をしていくことに大きな価値がある。そして、議員ルートで集まってくる情報を整理して本部にインプットすること。そして、本部に集約される情報を議員にフィードバック、後のフェーズで議会での審議の場面になったときに豊富な情報踏まえて議論していく

方向性が大事であると。議会のあり方については、久慈市や陸前高田市では、行動マニュアルを作成。そして議会BCPへ。さらに、ICTの活用へと段階的に進めていた。迅速にかつ必須事項として我が議会も考えないといけない。特にDXの部分についてそう思った。

・デジタル、生成AIを活かす:一言、感心した。このようなやり方があるのだと。チャットGPTやコパイロットの活用シーンを学びました。会議の要約や、繰り返しや、雛形の複製等面倒な事務作業を楽にする。また、Excelやグラフ作成や説明の執筆などの難しい分析を手軽に行う。また発想壁打や図像の生成や企画の立案をサクサクとできるなど、議会活動にも活用できるし、大きな武器になるものを勉強させてもらいました。とても良かったです。そのほか、議会改革の最新トレンドとトピックス」について学んできました。